

「花の街」

初め

優しく心地よい歌詞とメロデーだ。満開の桜のような温かいのにどこか悲しみを含んでいる感じが胸を打つ。

心地よさはリズムや旋律に

理由があると思う。最後まで

なだらかなリズムの穏やかさや、各フレーズが八分休符で始まる旋律の軽快さが、心地よさにつながっていると思う。

悲しい印象については、

「泣いていた」や「さみしく」などの悲しい歌詞に長調の明るい旋律が付けられていることが、かえってもの悲しさを感じさせているのだと思う。

この曲は戦後間もなくに作られた。作者が廃墟の町と向き合い理想的な夢の世界を託したのだろうか。

終わり(まとめ)

当時の日本に思いをさせ、温かくもの悲しいイメージを伝えるように歌いたい。

音を視覚でとらえるなど、感覚を切り替えて表現すると印象的になる。

どんな特徴がどんな雰囲気をもたらししているか、具体的に説明している。

ここでは、歌詞や旋律など、音楽ならではの観点を示している。

調べたことや知識も根拠として書き添えた例。自分の表現の目標につなげてまとめた例。

